下津北山遺跡（おりづきたやま）

調査の経過　下津北山遺跡は稲沢市北東部の下津北山町地内に所在し、青木川右岸と三宅川左岸の自然堤防帯に挟まれた後背湿地に立地する。

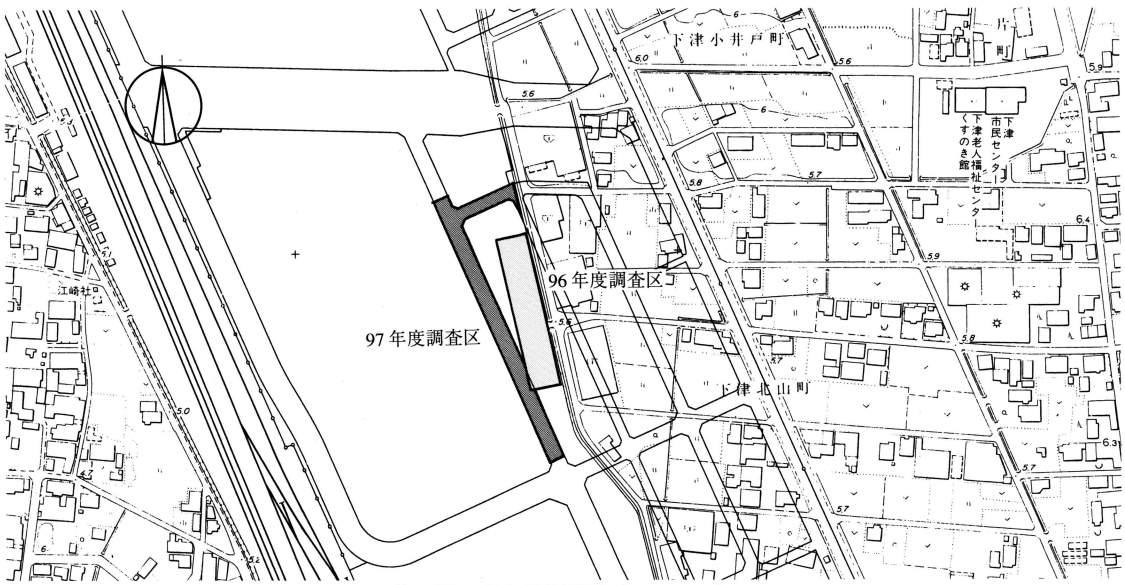
今回は尾張西部都市拠点地区開発に伴う事前調査として、住宅・都市整備公団より愛知県教育委員会を通じて委託を受け、平成９年11月から平成10年３月にかけて2,100㎡の発掘調査を実施した。

調査の概要　昨年度の調査では、12世紀後半の寺院に関連する遺構、および14世紀前後の集落域と、性格が異なる２時期の遺構群を確認している。今回の調査では昨年度の調査とほぼ同様の成果を得たほか、寺院をめぐる空間的な様相が一層明らかとなった。

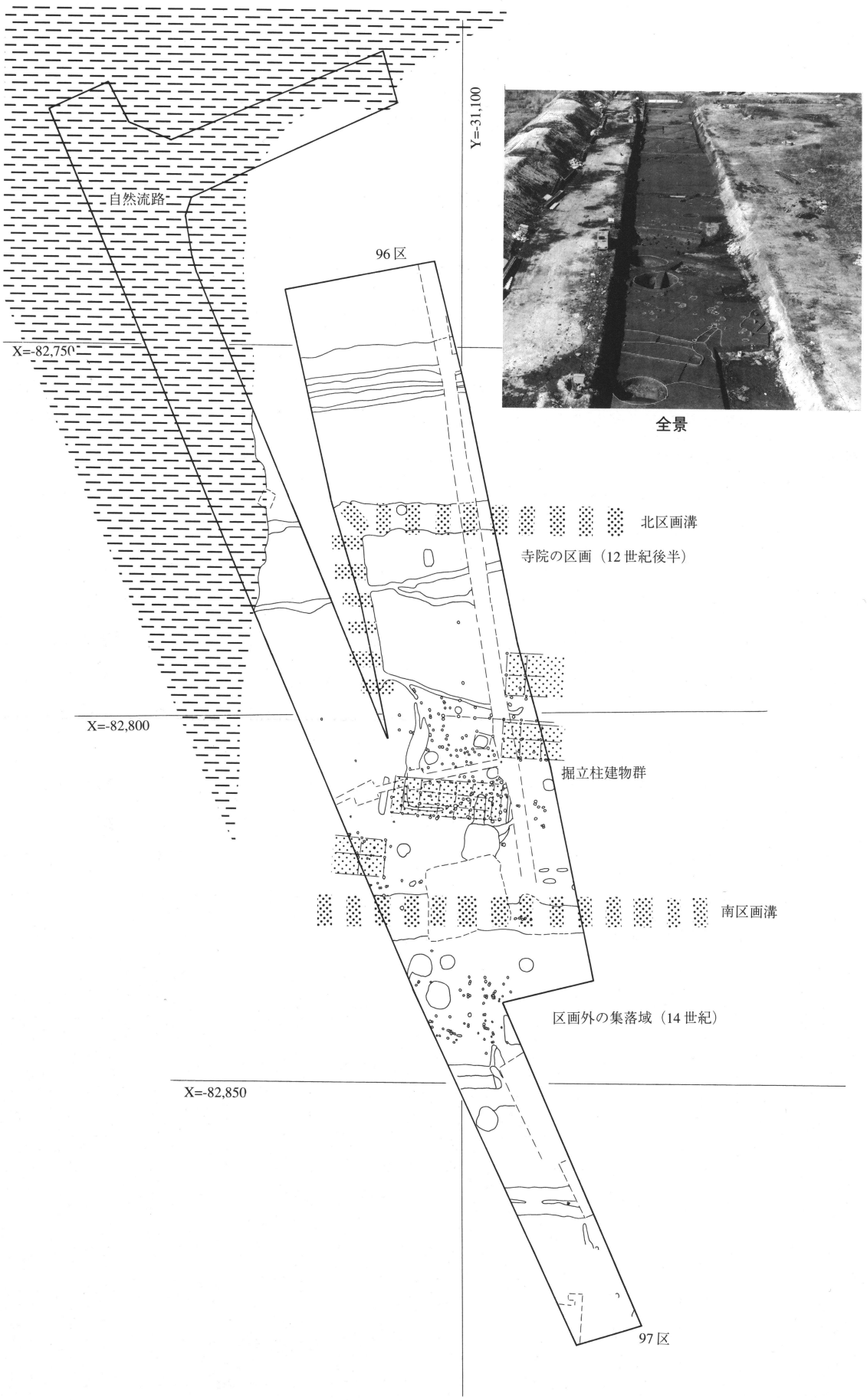
１２世紀後半の遺構としては、昨年度の調査で円塔や「僧」の墨書がある灰釉系陶器をはじめとする遺物が出土した南区画溝の延長部分を検出し、寺院の区画がさらに西側に広がることを確認した。これに対して昨年度確認した西側を区画する溝の続きは検出されず、空閑地が設けられていることから、区画の西側に対しては一部分が開放されていたと想定できる。また、昨年度確認した区画内の中心となる建物の続きを確認し、桁行が５間、梁行が３間で、東西に庇と雨落ち溝を伴う大型の掘立柱建物であることを明らかにしえた。遺物としては、南区画溝の上層から出土した陶硯、南区画溝に近接した井戸の上層から出土した提子の環座が特筆される。

１４世紀の遺構は井戸、柱穴群が寺院の区画溝以南で比較的密集して検出された。これらの遺構からは、灰釉系陶器、土師器の鍋などの日常雑器類が多く出土している。

上記の成果には、古代末から中世初頭における寺院の一つの姿を表すものとして、また中世から戦国期にかけての街道周辺における開発の進展を窺わせるものとして、看過することの出来ない内容が多く含まれている。　（早野浩二）



第１図　調査区位置図（１：5000）


Y=-31,100
自然流路
96区
X=-82,750
全景
北区画溝
寺院の区画（12世紀後半）
X=-82,800
掘立柱建物群
南区画溝
区画外の集落域（14世紀）
X=-82,850
97区

第2図　遺構図（1：800）